

検査成績書

品 名 サーマレコーダー おんどとり

型 番 RTR501BL

製造番号 本体 No.52804D4A

■ 温度

| | |
|----------|-----|
| 標準器温度 °C | 5.0 |
| 指示値 °C | 5.0 |

標準器との恒温槽内における比較検査による結果は上記の通りです。

| 承認 | 検査 |
|---|---|
|  |  |

検査年月日 2026年 2月13日

日本計量器工業株式会社

〒101-0046 東京都千代田区神田多町2-9



校正証明書

依頼者 愛知県がんセンター

品名 サーモレコーダー おんどとり

製造番号 本体 No.52804D4A

上記の製品は当社の校正基準に従って校正を行い、その検査結果は別紙のとおりです。
また、この校正に使用した標準器は、国家標準とトレーサブルできるものです。

■ 校正に使用した標準器

| 標準器名 | 測定範囲 | 最小目盛 | 器物番号 |
|-----------|---------|------|------|
| 標準ガラス製温度計 | -2℃～52℃ | 0.1℃ | 1798 |

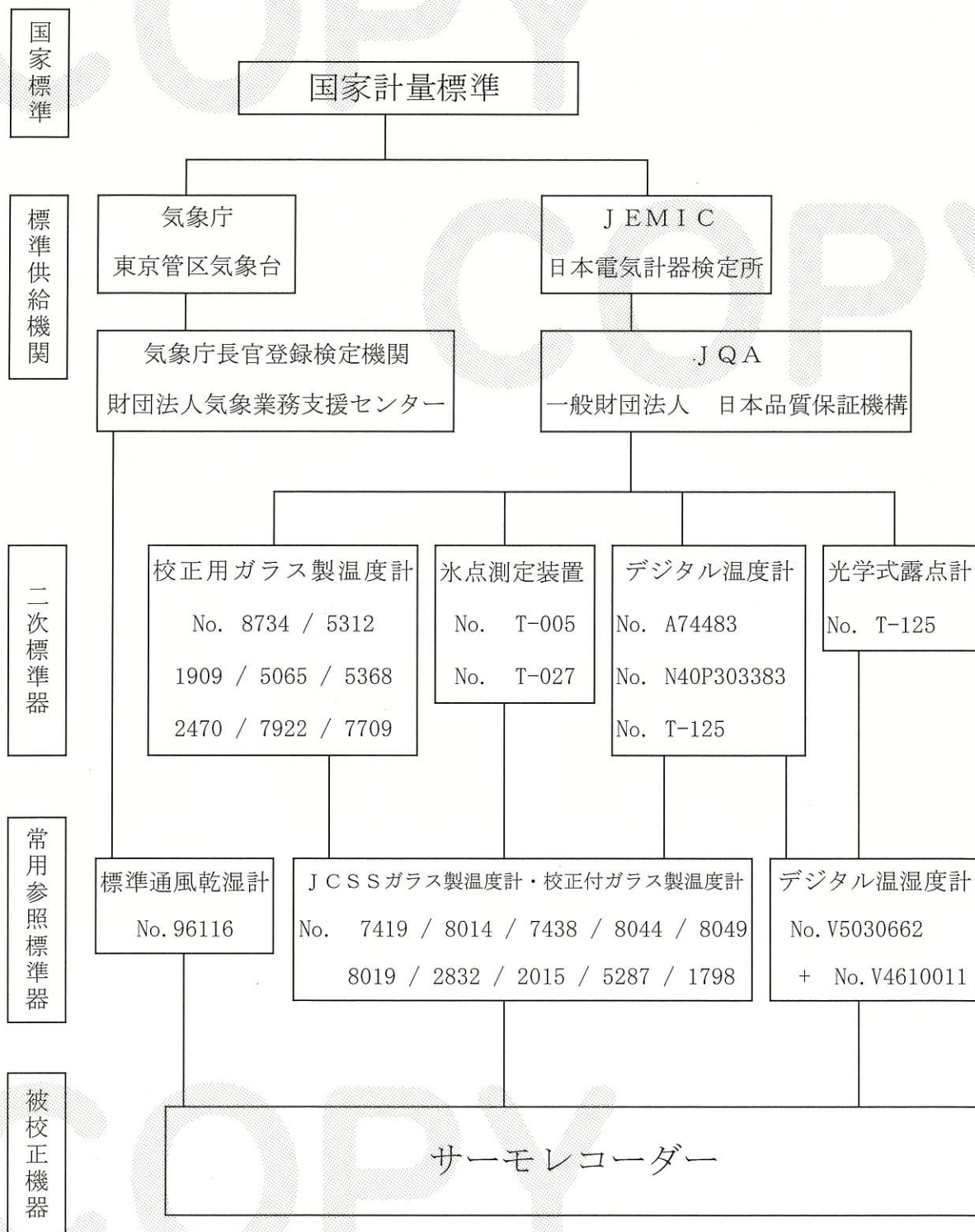
2026年 2月13日

日本計量器工業株式会社

〒101-0046 東京都千代田区神田多町2-9



サーモレコーダトレーサビリティ体系図



上記の製品は国家基準とのトレーサブルな校正機器を使用し、
当社の検査規定に従って検査しました。

2026年 2月 13日

日本計量器工業株式会社

〒101-0046 東京都千代田区神田多町2-9



JCSS
JCSS 0064総数 2 頁 の 1 頁
証明書番号 53-2274739

校 正 証 明 書

依 頼 者 日本計量器工業株式会社
住 所 千葉県匝瑳市みどり平12-2
品 名 ガラス製温度計
型 式 又 は 性 能 目盛範囲 -2℃～52℃
目量 0.1℃
製 造 番 号 1798
製 造 者 日本計量器工業株式会社
校 正 項 目 温度
校 正 方 法 JQA校正要領書による（文書番号E534601）
校 正 結 果 次頁以降のとおり
校 正 年 月 日 2022年12月20日
校 正 実 施 場 所 愛知県北名古屋市沖村五反22番地
一般財団法人 日本品質保証機構 中部試験センター
熱学計測課校正室

校正結果は以上のとおりであることを証明します。

2022年12月22日

愛知県北名古屋市沖村五反22番地
一般財団法人 日本品質保証機構
中部試験センター

所 長 田 中 好



この証明書は、計量法第144条第1項に基づくものであり、特定標準器(国家標準)にトレーサブルな標準器により校正した結果を示すものです。
書面による承認なしに、この証明書のカラーコピー及び一部分のみを複製して使用することを禁じます。
当センターは、ISO/IEC 17025:2017に基づく校正機関として認定されています。

校 正 結 果

| 表す温度(℃) | 補正值(℃) | 拡張不確かさ(℃) |
|---------|--------|-----------|
| 0.00 | +0.05 | 0.04 |
| 5.00 | +0.09 | 0.04 |
| 15.00 | +0.08 | 0.04 |
| 25.00 | -0.03 | 0.04 |
| 35.00 | +0.01 | 0.04 |
| 45.00 | +0.02 | 0.04 |

- ・表す温度とは、被校正ガラス製温度計の校正の温度目盛をいう。
- ・表す温度の指示すべき温度値は、表す温度に補正值を加えて求める。

校正の不確かさ

拡張不確かさは、包含係数 $k=2$ から決定したもので、約95%の信頼の水準をもつと推定される区間を定める。

校正条件

- ・校正は、標準器との比較測定により行った。
- ・校正は、被校正ガラス温度計を最高温度で30分間アニール試験をした後行った。
- ・校正に使用した温槽
 - 0℃の温度目盛の校正には、氷点測定装置を使用した。
 - 5℃～45℃の温度目盛の校正には、水温槽を使用した。
- ・校正を実施したときの校正室の環境条件
 - 温度 22℃～23℃
 - 湿度 42%～45%

校正に使用した標準器等

- ・校正用ガラス製温度計 (5312)
- ・氷点測定装置 (T-027)

特記事項：校正品の受理後、修理及び調整を行わず校正を実施した。

以 上